

がん検診

定期的な
検診が
大事なんですよ



いつ受ける？ 声かけしよう がん検診

公益財団法人 日本対がん協会
2020年度 がん征圧スローガン

どうして 「がん検診」が大事なの？

がん検診は一般に「健康な人」にがんがあるかどうかを調べる検査です。胃がん・大腸がん・子宮頸がん・乳がんは、早期発見・早期治療で9割以上の方が治ります。がんの早期発見に大切なのは、何も症状のないうちに定期的に検査を受けることです。がん検診を受けた結果「異常なし」の場合は、次回の検査を受けてください。「要精密検査」の場合は、病院や医療機関で必ず精密検査を受けてください。

「がん検診」って、 どうやって受けるの？

市区町村のがん検診の場合

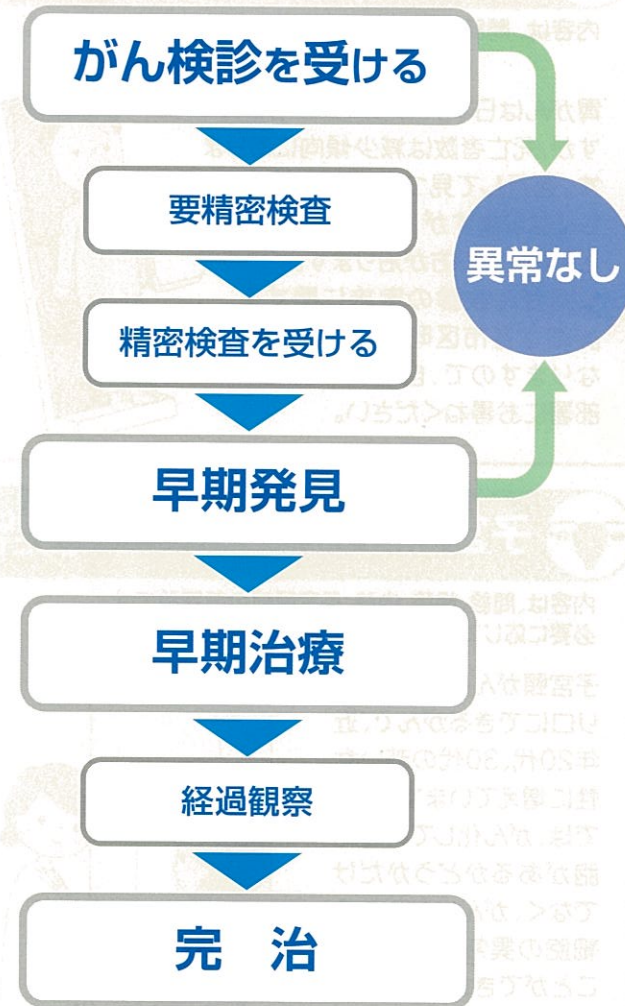
お住まいの市区町村が実施しているがん検診にお申し込みください。検診の日時や場所、予約方法(電話・郵送・インターネットなど)は自治体によって異なりますので、確認してください。また、検診費用の補助をしているところもありますので、補助金額など詳細については、お住まいの地域の担当窓口にお問い合わせください。企業にお勤めの方は、検診の費用を補助してくれる健康保険組合もありますので、所属する健康保険組合にお問い合わせください。

がん予防・がん検診の推進に
についての情報はここで確認



https://www.jcancer.jp/about_cancer_and_checkup

◆ 早期発見から完治までの流れ ◆



公益財団法人
埼玉県健康づくり事業団

〒355-0133 埼玉県比企郡吉見町江和井 410-1
TEL 0493(81)6024 FAX 0493(81)6747
<http://www.saitama-kenkou.or.jp>

発行:2020年4月 公益財団法人日本対がん協会 無断転載を禁止します。

胃がん検診

50歳以上
2年に1回
当分の間、X線検査は40歳以上、
毎年実施可

内容は、問診と胃部X線検査または胃内視鏡検査です。

胃がんは日本人が多くかかるがんですが、死亡者数は減少傾向にあります。進行して見つかったと治療が難しくなりますが、早期に発見すると9割以上の方が治ります。

※胃がん検診の実施に関する詳細は各市区町村によって異なりますので、自治体の担当部署にお尋ねください。



肺がん検診

40歳以上
年に1回

内容は、問診と胸のX線検査です。必要に応じて喀痰細胞診(痰の中の細胞成分を調べる検査)を行います。

肺がんによる死亡者数は2017年には7万4120人となり、1998年に胃がんを抜いて以来トップを占めています。抗がん剤の研究や開発が進められていますが、まずは自発的に禁煙をしたり、検診を受けることが推奨されます。



大腸がん検診

40歳以上
年に1回

内容は、問診と便潜血検査(2日法)です。

大腸がんは食生活の欧米化の影響もあり、死亡者数は年々増加しています。特に女性では、がんによる死亡の中でもっとも多く、2017年には2万3347人が亡くなっています。早期に治療をすれば治療が可能ですので、毎年検診を受けて、早期発見することが大切です。



子宮頸がん検診

20歳以上
2年に1回

内容は、問診、視診、内診、子宮頸部の細胞診です。必要に応じて腔拡大鏡診(粘膜表面の検査)を行います。

子宮頸がんは、子宮の入り口にできるがんで、近年20代、30代の若い女性に増えています。検診では、がん化している細胞があるかどうかだけでなく、がんになる前の細胞の異常を見つけることができます。



乳がん検診

40歳以上
2年に1回

内容は、問診とマンモグラフィ検査(乳房X線検査)です。

乳がんは日本人女性がかかるがんで最も多いがんです。11人に1人が生涯に一度は乳がんになるといわれ、30代後半から増加します。仕事や子育てなどで忙しい世代ですが、ぜひ検診を受けてください。早期発見すれば9割以上の方が治ります。

※視触診は推奨されていません。



がんを防ぐための新12か条

1. たばこは吸わない
2. 他人のたばこの煙をできるだけ避ける
3. お酒はほどほどに
4. バランスのとれた食生活を
5. 塩辛い食品は控えめに
6. 野菜や果物は不足にならないように
7. 適度に運動
8. 適切な体重維持
9. ウイルスや細菌の感染予防と治療
10. 定期的ながん検診を
11. 身体の異常に気がついたら、すぐに受診を
12. 正しいがん情報でがんを知ることから

日本では、**肺がん、胃がん、乳がん、子宮頸がん、大腸がんの5つ**のがんに対して、厚生労働省が指針を定めて**がん検診を推奨**しています。これらの5つのがんでは、がん検診によって死亡率が下がることが科学的に証明されています。ただし、すべての検診には「デメリット」があります。がんではないのに「がんの疑い」と診断されて、不必要な精密検査を受けたり、死亡につながらないがんが見つかって不必要な治療をして受けたりする可能性もあります。検査による出血や被ばくなど、体に負担がかかることがあります。しかし、これら5つのがん検診では、こうしたデメリットより、がんで亡くなることを防ぐメリットが大きいことが、科学的に証明されています。

詳しい説明はがん研究振興財団のホームページを参照してください。
<http://www.fpcr.or.jp/pamphlet.html>